

清須学推進会議 第2回会議 議事録

日時	平成28年8月26日(金)午前10時～11時40分		場所	清洲市民センター 3階 303会議室
出席者	推進会議 委員	原田 幹 委員 (愛知県教育委員会文化財保護室 主査) 加藤 富久 委員 (郷土史家) 横井 敏雄 委員 (清須市ガイドボランティア 会長) 加藤 暉夫 委員 (清須市ガイドボランティア 副会長) 田中 孝則 委員 (清須市ガイドボランティア) 箕浦 信夫 委員 (西枇杷島町山車保存会・西枇杷島町まつり振興会 会長) [会長] 山本 武司 委員 (キリンビール株式会社 名古屋工場 総務・広報担当) 石田 隆 委員 (清須市観光協会事務局長 (清須市産業課長)) [副会長]		
	清須市	事務局 (企画部企画政策課)、生涯学習課		

1 開会

事務局

定刻となりましたので、ただいまより「第2回 清須学推進会議」を開催いたします。

本日の会議も、私、企画政策課の藏城の方で進行を進めさせていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

本日の会議の内容につきましては、お手元に配付させていただいております「次第」のとおり進めさせていただきたいと思います。

本日の会議は、おおよそ1時間半程度を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まずお手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。一番最後に、「日経BP総合研究所レポート」という小冊子を添付させていただいております。こちらには、4ページと24ページのところに、地方創生に関する公民連携に関する座談会、対談の様子が記載されております。また、キリンビール株式会社様の地元愛を育む参加型ビールの取り組みについても紹介されておりますので、本日の議題には直接関係ございませんが、関連資料としてお持ち帰りいただければと思います。

資料の不足や乱丁等があれば、差し替えをさせていただきたいと思いますので、お申し出いただければと思います。よろしいでしょうか。

では、「次第」にしたがいまして会議の方を進めさせていただきます。

まず、「1 開会」ということで、開会に当たりまして、事務局を代表いたしまして企画政策課長の河口よりごあいさつを申し上げます。

○あいさつ

事務局 (河口課長)

おはようございます。

委員の皆様におかれましてはご多忙の中、この8月に2回目となりますけれども、「清須学

推進会議」にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

8月9日に開催させていただきました第1回の会議におきましては、この事業の立案経過から、大まかな事業の進め方というところを、事務局で作成した原案を基にご議論いただいたところでございます。そしてまた、先ほどありました8月16日に開催いたしました地方創生全体の「清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議」の場におきましても、清須学の推進事業について様々な意見をいただいたところであります。

そこで、今回のこの会議におきましては、これまでにいただいたご意見を受けて、特に清須学講座とそのテキストの作製について、こちらの会議で方向性を決めさせていただきたいと考えております。

また、マイスターを認定する仕組みですとかその役割につきましても、次回11月頃に予定しておりますけれども、この会議におきまして引き続きご議論させていただきたいと考えております。

前回までの会議で様々な意見を頂戴いたしておりますので、本日の資料にその検討結果を反映した内容を示してございます。本日はいろいろとご意見をいただければと思っておりますので、よろしく申し上げます。

○ 委員紹介

事務局

それでは、議題に入らせていただきたいと思います。

議題に入らせていただく前に、第1回会議を開催させていただいた際にご公務等でご欠席だった委員さんがおみえですので、この場でご紹介の方だけさせていただきたいと思います。

まず、愛知県教育委員会文化財保護室の原田幹様でございます。

原田委員

原田です。よろしく申し上げます。

事務局

続きまして、キリンビール株式会社名古屋工場の山本武司様でございます。

山本委員

山本でございます。よろしくお願いいいたします。

事務局

本日、中日信用金庫理事長の山田委員様、及び清須市商工会事務局長の奥田委員様の2名様はご欠席ということになっております。

それでは早速、議題に入らせていただきたいと思います。

「次第」の「2 議題」の「清須学推進事業の基本的方向性について」の議事進行につきましては、お手元の資料に基づきまして事務局より一括して説明をさせていただいた後に、各委

員の皆様から順次、ご意見を頂戴したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 議題 清須学推進事業の基本的方向性について

事務局

それでは、事務局より本日の資料についてご説明をさせていただきたいと思っております。

○資料説明 (事務局)

資料1 清須学推進事業の基本的方向性に係る意見聴取結果の整理

資料2 清須学講座構成について (案)

資料3 「清須マイスター」について (案)

資料4 清須学推進事業 年間スケジュール (案)

参考資料1 第1回 清須学推進会議 [平成28年8月9日(火)]の主な意見

参考資料2 平成28年度 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議議事要旨

○意見交換

事務局

では、これから各委員様からお1人ずつ、短い時間になりますが5分程度を目安に、ご意見の方を頂戴したいと思います。

では、ご発言の方を前回と同様に配席の順に時計回りの順でお願いしたいと思います。ではまず、横井委員様から順番にご発言の方をお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

横井委員

まず資料1から順番に伺っていきたいのですが、私は基本的に大きい方向性として、今説明された説明でいいと思います。

最初、資料1の1番目の、実施期間が今回は長く取れないということもあって、これは6回でやむを得ないと思います。できたら、来年からもう少し回数が増やせれば増やしていただきたいとは思っています。

それから、地域資源の絞り込み。面的に活用できるよう、この辺が具体的にどういうふうな絞り込みになるか。具体的にはこれから詰めていくのだと思いますけれど、地域資源の絞り込みは非常に重要だと思いますので、しっかりやっていただきたいと思っております。

マイスターの認定の方ですね。ガイドボランティアのメンバーの中では講座関係は、生涯学習課の方でボランティア養成の座学を十分受けて、それで今ガイドボランティア活動を行っていますので、今回新たにこういう制度が始まろうとしていますけれども、先ほどのガイドボランティアについての特別の配慮がされれば、私たちとしては、ガイドボランティアの中でもいろいろな経歴の方がみえますので、新しい、案のとおりにいけば、十分我々に対応できるのではないかと考えております。

今説明を聞きましたけれど、気がついたのはそれくらいです。また後で、気がついたらまた言いたいと思います。以上です。

事務局

ありがとうございます。続きまして、加藤委員様。ご発言の方をお願いします。

加藤（暉）委員

前回の意見をまとめていただいて、今ご説明いただきました。いい具合にまとめられたなと思ったのがまず第1です。

それから、前回の会議でお話した内容に、付け加えさせていただきたいと思います。

といいますのは、今やっていることにプラスアルファして、非現実的なことを1つか2つ考えて、それを考えの中に入れるという発想が必要だと思います。今現在すぐには非現実的でも、5～6年先には現実になるような世の中だと思うからです。

例えばどのようなことかということ、私たちガイドボランティアは、今年で活動を始めて7年か8年になりますけれども、お客さんが来られた時に何回も聞きましたのは、遠くから来られたお客さんが、JR清洲駅を降りて、清洲城に行くにはどうやって行けばいいか、駅で聞けばいいと思って来たけれども、駅にそういう場所がない。仕方なく行き方を書いた案内図のようなものはないかと思って探したけれども、それもないと。周りの人に聞いたら「こちらへ行けばいいですよ」という程度のことを言われただけだった。「清須市は地域の歴史については力を入れていない街だなと思いました」というようなことを言われました。この7～8年の間に2回か3回、同じようなことを言われているのです。

例えばJR清洲駅から清洲城に来るにしても、どの道を来たらいいいのか、どの道を帰ったらいいのだろうか。新清洲の方にしても、どのような形で案内してくるかというようなことを考えた場合に、予算の関係があるとは思いますが、駅から歩道を作って、観光客の方が来やすいような環境整備をするというようなことです。そうすることによって、先ほどご紹介したような例もなくなるでしょうし、今すぐには難しいか分かりませんが、考えなくてはいけないのではないかと思います。

それからもう1つ、愛知県の陶磁美術館で開催されている朝日遺跡の展示会へ行ってきたのですが、非常にいいですね。清洲貝殻山貝塚資料館で見たものとはずいぶん違うものもありまして、こんなのが清須で飾られるようになるのかと思うと嬉しい気持ちになったというのが、実際の気持ちでした。2階の展示も見て回りましたが、どの遺跡の物を見ても朝日遺跡の遺物ほどのものはなかったということが実感できました。だから、今度あそこに建物が建って、ああいうのが清須に飾られるということは、非常にすばらしいことだと思うのです。

それとともに、そうであるなら、お客さんをそれで引き込むような方策が必要だと思います。要するに宣伝ですね。そして、清洲城と朝日遺跡を結ぶような交通機関というか、行けるような形のようなことも必要。

もう1つは、現在、キリンビールさんの方にたくさんのお客さんが起こしになっているとい

う状況ですので、三角形のコースを作ってもいいのではないかというくらいの気持ちを持つわけです。

いろいろな形で、これから考えていくべきことはたくさんあると思いますけれども、非現実的なこともやはり、先のことを考えたら今から考えておく必要があるのではないかということが、付け加えたいと思ったことです。

その他につきましては、非常にうまくまとめられておりますので、私はこれについてはこれでいいのではないかと思います。以上です。

事務局

ありがとうございました。続きまして、田中委員様。

田中委員

今あったように、前回私どもが意見を言わせていただいたものを、ある程度反映していただいて、こういうふうにいきたいという案を出してみえるのですけれども、本当に残念ですね。6回しかやらないというのは。これでいいのか。ペーパーテストだけをやって認定するとか。ちょっと残念だね。もう少し講座をやってほしいというのは、前もお話ししたことなのですが、このままということで。いろいろな事情があって、これでいくのだと。

それから、講座は土日を想定しているということで、今回も書いている。これは決定ですか。土日というのは、学校の先生とかにも講座へ参加してもらうためでしたね。もちろん勤めている方も含めてですけど、やはり土日がいいということでそのまま行くのですか、これも。ということをお聞きしたいのです。

6回というのは分かりましたけれど、その6回のうちすべてが土日でやるのですか。それは何も書いてないですね、これにもね。その点はどうでしょうか。

事務局

田中委員にお答えいたします。決定かどうかという観点でのご質問であれば、決定事項としてお示ししているものではないということです。つまり、今回の会議で少なくとも講座につきましても、この建て付けでいってよろしいかということをお伺いするという案でございます。

趣旨は、田中委員からもご指摘いただいたように一般の方を含め、教職員の方々にも広くお勧めするに当たって、その方々が参加しやすいようにという観点で土日開催というふうな建て付けをお示ししているところでございます。以上でございます。

田中委員

実際に募集要項は9月17日のシンポジウムで配るのですか。皆さんに「こういうことをやりますよ」といって。今回のチラシも清須学開設記念シンポジウムと大きく書いていますけれど、清須学とは何でしょうかということ。

私もこんなことを言っただけけれども、会場が600人も入るところで、お客さんがあま

りに少ないようでは、小和田先生に失礼ではないかと私は思うのだけれども、今月末で一応締め切りになっていますよね。一応。今どれくらい申込みがあるのですか。

事務局

お答えいたします。現時点で300名強の方にお申し込みいただいているという状況ですので、会場の規模に対しては、まだまだ余裕があるというのが実際のところですよ。

なので、今後、募集期間過ぎてもお声掛けを各方面でやらせていただき、できるだけもう少し高い集客を目指して努力していきたいと考えております。

田中委員

はい。せめて400くらいないとね。がらがらでは失礼だね。600人も収容できるようなところで半分ではね。小和田先生に失礼です。

17日には配れるのですか。その概要を。募集をこうやってやりますよという。申し訳ありませんね。疑問に思っているものですから。

事務局

募集要項という内部的なきちとした資料ではなくて、一般の方向けのご案内1枚と申込用紙といったものをお配りする予定です。小和田先生からいただく当日のレジメをはじめ、清洲城のチラシ等も含めて、封筒にまとめて配布をさせていただく予定です。

講座につきましては、司会者の進行の中でもご紹介をさせていただこうという心積もりをしております。

田中委員

先ほど加藤委員の方から話があって、それに関連するのですけれども、私が常々思っているのが、清洲城へ来る人のための案内板は、いくつかありますね。新清洲駅もJR清洲駅も、駅を出ると清須市の大きな案内板があります。予算だとかいろいろなことがあると思うのですけれども、どこの市でも大きい駅、最寄りの駅には観光案内所まで置けないにしてもパンフレットは置いてありますよね。ですから、例えば新清洲駅とJR清洲駅の窓口にそういう資料を置かせてもらうことはできないのか。清須学には直接関係ないかもしれませんが。

それと、清洲城とかいう看板は、今適当に立っています。ですから、分かるといえば分かる。だけど、逆に私が思うのは、清洲駅へ帰る時に道が分からないのですよ。長者橋を下りていったところの、200メートルくらい下がったところに、矢印と新清洲駅という看板を立ててもらおうと、いいのかなと思います。

お城辺りで説明すると、五条橋、その次が長者橋というのですけれども、橋を渡らなくて右へ折れて、少し行って左へ折れてくださいとは言うのだけれども、分かりにくい。清洲城へ行く看板は今でもあります。矢印をしたやつね。だから、少し行ったところに広い道ができましたよね。ちょうどその分かれ目のところに、矢印で新清洲駅ということを入れてもらおうと嬉しい

かなと。今の方向の話ね。すぐはできないかも分かりません、予算的に。

それと、横道ばかり入って申し訳ないのですが、これはどこの担当か私もよく分かってないのですが、清須市名所案内板というのがあって、これは昔の春日町時代に立てられたものですが、春日以外の旧3町というのですかね、こうした名所案内を市民向けに統一的な周知をすることはできませんか。

ご存じだと思いますけれど、春日に10カ所くらい立っています。清須名所案内板というがあります。合併してから10年も経って、春日だけにあるから違和感があります。取り外しなさいとは言いませんけれども、やってもらおうと嬉しいなど。

それともう1つ、次から次で申し訳ないけれども、今度清洲庁舎が本庁へ替わりますということで、ご案内を頂いています。1月ですね。そこに信長の「人間五十年」の碑があります。桑原幹根さんが昭和46年に揮毫したもので、これはどうなるのかなと。できたら、私の希望ですと、信長の銅像がある清洲公園のこんもりしたところがありますね、その辺りに、どこがいいかは別として近所に移してほしい。予算がいることですから、これも、今から考えていただきたいなということをお願いしたい。

いろいろありましたけれど、いろいろなことをたくさん言いまして申し訳ないですけど、思ったことを申しあげました。

今の話で、講座の募集は、清須のウォークのように中日新聞に出ますよね。こういうことは、やりませんか。9月17日に。あれはやっぱり、要するに市民だけでなくいいのですね。9月17日の話ですけど。そうするとある程度、「行こうか」という人も、仮に北名古屋市の方とか稲沢市の方、そういう人はあまり分かってないわね、清須学をやるということは。

清須市民は広報に入っていましたけれど、普通は広報の中の記事で紹介すると思うけれどもないからね。だから分かってないですよ。チラシは入れてもらっていますよ。でも、知らないという人が多いです。だから、広報の本文の中にあれば小さい記事でもみてあるのだけれど、中に差し込んでありましたね。私のところは議会だよりの中に入っていました。私も最初は見なかったものだから。だから、よく分かってないですよ。そういう講演会があるということ。だから、中日新聞なんかでやられるのかなと。そういう連携はできていますか。

余分な話ばかりしていますが、火曜日に中日新聞の土田の販売店さん、すごいね、自分の地域のことだからPRが早い。翌日に尾張版で大きく載っていました。小学生を対象に夏休みの調査隊、探検隊というのか、土田の新聞店がそういうものを募集したのです。翌日、花井さんだったかな、女性の記者で、尾張地区の担当だと思っただけけれども。翌日にすぐ載りました。やはり、だいぶ経ってから載っては、意味ないね、あれも。

箕浦会長

どういう基準で載せているかということは僕らも分かりませんが、大きな記事がある時は後回しになるだろうし。

田中委員

要するに、そうやって取り組んで、皆さんに地域のことを知ってもらいましょうということで、企画してもらって、私らはありがたいのですよ。私がガイドしましたからね。

清須市立清洲小学校だから、「須」の字が違うということ、大きな紙に書いて私が説明しました。だから、そういう点は関心を持ってもらおうと嬉しいなど。ちょっとまた、中日新聞の話が出ましたものですからお話ししましたのですけれども。長々すみません。余分なことばかり言うておりました。これで終わります。

事務局

新聞のリリースにつきましては、市長、副市長をはじめ、清須市のPRについて、新聞媒体を使っていろいろなことをPRしろというようなことで積極的に、中日新聞、他の新聞も含めて、うちの方からは情報提供はしているのですけれども、いかんせん先ほどから言われましたように、載せる記事のチョイスについては、市が口を出せることではありませんので、情報提供をした上で向こうの新聞社さんが選んでいくというような状況です。

この清須学につきましても、実際、違う話になりますけれども、ふるさと納税諸々のPRにつきましても、新聞各社の方への情報提供の方はさせていただいておりますが、いかんせん載ってないというのが現状です。

こちらの方につきましては、根気強く新聞各社の方には、清須学は人集めが大切ですので、積極的に新聞社の方には情報提供をしていきたいと思っております。

あと、お話の中にありました、清洲庁舎、信長の碑につきましては、現時点では言われるとおり、信長像の近くに何とか移設したいと考えて検討している最中だということで、確定ではないのですけれども、そういったところの方向性で検討しているというところだけ、この場で。

田中委員

はい。いろいろなことで直接関係ないようなことも申し上げて、申し訳なかった。時間取ってしまってすみませんでした。

加藤（暉）委員

今の「人間五十年」の碑については、ガイドボランティアみんなが同じようなことを言っているのですね。あそこで説明するのですよ。

事務局

あれ自体は、当然有名な言葉ですし、書かれた方も著名な方ですので、移設の方向に向けて検討しております。移設先がどこだということ当然、流れとしては信長像の近くになろうかと思えますけれども、ただ、場所ですとか、先ほど出ましたように経費的なこと、諸々ございますので、そういったところを今、詰めている最中ですので、確定だということをおっしゃっていただくちょっと困りますけれども、その方向に向けて今、検討しているというところなんです。

加藤（暉）委員

ありがたいです。

事務局

ありがとうございました。では続きまして、山本委員様お願いします。

山本委員

山本でございます。前回欠席して申し訳ございませんでした。

資料を拝見しまして、個人的には全く違和感ございません。総論としてはこの方向で進めるべきだと思います。各論の部分になるとまたいろいろな議論が出てくるかと思いますが、総論については、以上の感じです。

私が注目したいのは、何故この清須学あるいは清須マイスターというのをやるかということです。それが資料3の「1 活用方針」に書かれているのですが、要はシビックプライド、「清須が好きだよ」という人を増やすということです。それによって、今現在清須市にお住まいの方はもちろんですが、例えば通学している人、通勤している人が将来、清須に住むなんていうことがあればいいねということだと思っています。

それについての活動例というのが観光・教育・その他とありますので、この3点に絞って意見を述べさせていただきたいと思います。まず、一番下の「その他」から行かせていただきます。

「SNSや地域での交友範囲でのクチコミ等による情報拡散」とあるのですが、これは非常に重要だと思っています。SNS、フェイスブックとかツイッターとか、そういうのを通じて、若年層にもアピールするというのは非常に重要だと思っています。

それから、先ほど田中委員からもご指摘がありましたが、広報活動について、既に取り組まれているということですが、さらに強力にやるということがポイントだと思っています。具体的に、マスコミというのはいろいろなところから様々な情報が入りますので、どうしても優先順位付けというのは彼ら自社の中でやります。

そういう中で、読者として面白い点、あるいは「おっ」と思う点というのが必要ですので、目新しさとか、マスコミでよく言われるのは「初」とか「何万人突破」とか、そういうところかなと思っています。

ですから、例えばふるさと納税にしたら、「わずか何カ月で総額何円突破」とか、そういうリリースは常に打ち続けて、記者とのアプローチを続けていく。記者も人間ですから、そういう人間関係を作っていくってやっていけば、今回の清須学も、もしかしたら記者にとっては目新しくないかもしれないけれども、「これ何とかお願いします」ということで、本当にベタ記事でも載れば、おっしゃるとおりあと300人はすぐに集まるのではないかなと思います。

少々余談ですが、雑誌の「東洋経済」の記事で、新幹線の車窓はこんなに面白いという連載がございます。実際、東海道新幹線の運転士にとって東京駅から350キロの目印が、弊社名古屋

屋工場と清洲城なのだそうです。そういう話をライターの方にしたところ、その方が非常に興味を持っていただきまして、昨日取材に来ていただきました。ウェブ記事なので来月頭くらいにアップされるそうです。この後でまた詳しく清須市の方に共有させていただきます。

ただ記事に載るのがすばらしいということではなくて、そういう個々へのアプローチというのが効果的なのが、その記事を見た清須市民一人ひとりが、こんなことをやっている清須市はやっぱりいいね、すばらしいね、もっと好きになったね、というかたで、シビックプライドがさらに醸成されていくと思うのです。

そういう意味で、今回の清須学も清須マイスターも、どんな活動であってもすばらしい活動なので、それを広報に乗せることによってシビックプライドが醸成されていく、後もう一手のところをどうやっていくかという部分で、私はもともと弊社の本社で広報をやっていたこともあるのですが、そういった広報部分を通じて市民に対して働きかけるという効果は大きいと思いますので、その部分はすごく気にしていただければと思います。

前回、清須市立図書館さんと弊社と、それから名古屋芸術大学のコラボで、「日本一ビールに詳しい図書館になる」というのでイベントをさせていただいたのですが、中日新聞さんに大きな写真付きの記事を載せていただきましたし、中京テレビさんもベタ記事なのですが朝のニュースで取り上げていただいたりということもありますので、シビックプライドを醸成させるために、何をやればより効果的なのか、その視点を持って今回の会議は進めていかないといけないと、改めて申し上げます。

あと、観光分野と教育分野についてなのですが、教育分野につきましては小中高、短大ございますので、基本的にはこちらへのアプローチを続けていくべきだと思います。先週の「まち・ひと・しごと創生」の推進会議の方では、私も委員で参加させていただいたのですが、その中で愛知医療学院短期大学長と、あと、新川高校の校長もおられまして、教職員や生徒にもぜひ勧めたいと話しておられましたので、そういった若年層からシビックプライドを醸成していくというのは非常にいいことだと思っています。

3つ目の観光分野なのですが、加藤委員も指摘いただいたとおり、麒麟ビール名古屋工場で年間10万人の見学者がおられます。清須市の人口より多いのでかなり多いと思っています。清洲城が大体8万から9万くらい、貝殻山貝塚資料館が1万人弱ということなのですけれども、この3つをお互い行き来しやすいようにするというのがポイントかなと思っています。

こちらも予算が必要な話ですが、歩道の整備よりはかからないと思いますので、その3点と最寄り駅を回る巡回バスを用意するだけでも実現できればいいなと思います。

例えば麒麟ビールを見学して、あと清洲城とか貝殻山貝塚資料館がありますよといってバスに乗って行っていただくなんていうことがあれば、清須市内での滞在時間が長くなって清須に対する愛着も湧くでしょうし、お昼ご飯も清須市内で取るということになれば清須市にお金落ちていきますので、そういった考えがあるのかなと思っています。

もう1つ、隣に原田委員もおられますし、先週に会議で、野村室長ともお話しをさせていただきましたけれども、やはり朝日遺跡のアピールが欠かせないと思っています。先週、野村室長から県内の認知率が1割に満たないと聞いておりますが、原田委員のすばらしい名刺を拝見

しますと重要文化財が2,000点を超えているわけですし、野村室長の前任の冨田さんからスミソニアン博物館にまで貸し出している実績があるすばらしい資料群がありますので、そういう資料群があるのだということをアピールする。それが非常に重要だと思っています。

実際、新資料館が2020年に完成しますので、それ以後は非常にいい広報のチャンスだと思いますのですが、逆にそれまで、これだけの資産があるのをどう活用していくかというのも、ぜひアピールしていきたい、あるいは、していかななくてはいけないと思っています。

そういう意味で、私の意見としましては総論としては賛成だということ。それから、活動方針であるシビックプライドの醸成ということは必ず頭に置いて動かなければいけないということ。それから、観光分野、教育分野、それから、「その他」とありますが、これは私は「広報」だと思っています。SNSを含めた広報活動をきちんとやっていくこと。この3点が重要だということで私の意見とさせていただきます。以上でございます。

事務局

どうもありがとうございました。続きまして、原田委員様お願いします。

原田委員

原田です。こちらの清須学の講座の方につきましては、資料等を見させていただいて、前回の時にも資料を見せていただいておりますので、かなり整理が進んでいる。特にこれについても問題はないかなと思います。

清須学の講座のテキストですけれども、こちらの方では今回、「美」と「都市」というテーマを絞って、分かりやすく、物語性を持ってまとめているということですので、これも大変分かりやすく、いい試みではないかと思います。

やりようによっては、もちろん講座での配布を想定しているとは思いますが、清須を紹介するパンフレットのグレードの高い版みたいな形で、例えば市販するといったかたちで、将来的にはそういうPRの仕方もあるのかなと思いました。

それから、マイスターの考え方も、前回、コンシェルジュというのはちょっとどうなのかなと思って、書面ではそういう意見をお伝えさせていただいたのですが、マイスターという考え方で整理されているかと思っておりますので、これで進めていければいいのかなと思います。

あと、清須学の先ほどから話題に出ておりますシンポジウムですけれども、私も一部で出させていただきますことになってはいますが、申込は8月末が締め切りですか。

事務局

当初はどれだけの集客があるかというところが分からなかったのですが、締め切りを8月の末としたのですが、現時点で50%という状況ですので、締切日はなしで、引き続き、可能な限りお受けしたいとは思っています。

原田委員

あまり宣伝力はないかもしれませんが、朝日遺跡でSNS、フェイスブックとかもやっておりますので、県庁のホームページで関連させて載せますという起案を通したりすると面倒くさいですけれども、フェイスブックの方は意外と簡単にできますので、できれば今日にでも、まだまだ大丈夫ですよというご案内させていただこうかなと思います。

事務局

ありがとうございます。

原田委員

加藤委員さんからも先ほどお話がありましたように朝日遺跡、私、朝日遺跡の担当の学芸員ということで整備の方に関わっておりますけれども、今まであそこの資料館で見せられるものは限られたものしか置けない、見せられないということで、今度、瀬戸でその一部を少し広くお見せしておりますけれども、あれを恒常的に紹介していくのは私の長年の思いですので、2020年までにしっかりした展示施設を作っていきたいと考えております。

ただ、なかなか難しいのが、やはりアクセスの問題です。こればかりは、私ども県単独では何ともならないお話なのですが、清洲城、それからキリンビールさんのちょうど等間隔くらいでトライアングルに配置されておりますので、これを効果的に活用していくということは今までも折に触れてお話させていただいたりお願いをしておりますので、何とかこれもいい方向で進めていくように頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。以上でございます。

事務局

ありがとうございました。続いて、加藤富久委員様お願いします。

加藤（富）委員

地元の者ですけれど。前回は一番初めの発言で、もう一回りあるのかと思って終わってしまっていて、十分なことをしゃべってないのですが、今回まとめていただきまして整理されたところがありますし、同感なのですけれど、清須学を推進していく会議であるということですので、清須学というのは一体何なのか。もういっぺん定着させていかなければならないような気がいたします。

岐阜であれば信長学とかを既にやっておられた。最近はそういう「何とか学」が流行りではあるのですが、一体何をやるのか。今回、誇りを持ってこの街で生きられるという人を増やしていくのだ、そういう指導者を養成したいという。これはそれでいいのですけれども、ただ単に検定ということをやることによって果たして獲得されるのかと、僕は否定的な感じを持ったりしている方なので申し訳ないのですけれども。

清須の街に誇りを持って生きられるというのは、現在の清須が、本当に誇りを持って生きら

れる街であるような方向こそが大事であって、先ほど皆さん、ボランティアガイド活動を通じて言われたようなことをはじめ、まだまだ不足なことがいっぱいあるわけですね。そういうことをむしろ、現実的にはまちづくりとして、進めていただかなければいけない。そうすれば「この街に住んでよかった」というような方向で進められていくのではないかと。そういうことにお金を使ってもらいたいと思ったりするのです。

自分も属している文化財保護審議会の委員の立場から申しまして、残念ながら、本当に先ほど言われた文化財保護に関するパンフレットですかね、清須にはこんな文化財がありますよといったパンフレットもまだ十分な形ではできてない。道案内、あるいは文化財的なものの説明板も、これも何度もお願いしたことがあるのですけれども、旧町時代の姿が今も続いていて、統一した形で進められることが難しいということを言われて、結局はダメになってしまう。

歴史の街だと、歴史的な地域資源というものは何だということが3つほど大きく出されていたりしました。それは間違いなくこの街の宝物だといっているいいことなのですけれども、そういうことについても市民、地元の人たちも十分分かってない。何が大事なのかということが、ちょっと取り残されている部分があるように思います。そっちの方を進めていただきたい。皆さんもそういう発言のように感じているのですけれども。

そうした中で、清須学を進めていく。講座を6回、土日に進めていく。悪いことではない。私も一番最初の趣旨としては結構ですと一言言っただけで、あとは尻切れになっているのですけれども、先ほどの大きな3つの朝日遺跡、清洲城、美濃路という3つのポイントがあるということなのですけれども、十分研究されているのかどうか。城下町遺跡や、もちろん朝日遺跡の発掘だとかが進んでだいぶ進んできているわけですけれども、清須に関する文献もないわけですね。そういった研究、文字どおり清須学、研究の場として進めて、こういう機会を持たれることを願うのですが、とりあえずは、案内の十分できる方、資格を持った方を養成していくというのでもいいことだろうと思います。

私はそれに関しては、学校の先生、会社のトップに立たれる方、あるいは清須市の市長をはじめ指導的な立場にある方が歴史認識をきちんとしていただく機会であれば、いいと思うのです。段々となくなっているのではないかと。昔の方がそういう歴史認識に関する意識があったと思うのです。学校教育の場でも減ってきている。かつて小学校へ話をしに行ったこともありますが。今ではこうなっている。

学校の先生方は、着任されたら、清須がどういう街であったということをまずは認識していただくような、現職教育の場というものもあるので、そういう場で指導していただけるような人が育ってくれるなら、それはそれで効果があるかも分かりませんが。そういった感じを持っているということで。今度もシンポジウムがあるので、何を言えばいいのか、いまだに迷っております。

もう1つ、テキストを作ってやっていくのだという講座。既に作られた『清須市歴史散策 美濃路あるき』という底本があるということで、これを基にされていく。時間的なものもないし、これはよくできている部分がありますし、これを基にされるのはいいと思います。当然、許可はもらっておられるのでしょうか。

これを改編していく、またこれは美濃路歩きということで、配列も東の方からでしたかね、枇杷島の方から西の方へという形で編集されている。美濃路を歩くためのポイントということでまとめられていた。今回はそのまとめ直しをする。

「美」と「都市」、僕自身はなかなか難しいなどは感じているのですけれども、どういうふうにまとめ直しができるのか。それから、編集の順序ですね。時間的な問題、時間順にずっと並べていくべきではないのかとは思っていますが。

それから、清須市だったらもちろん大須の「須」でなければいけません。これについては、無理でしょうかね、ほとんど大須の「須」、現在の市の名前の「須」でやったらどうか。ただし、明治22年から平成17年、清洲町の時代に生まれた清洲城天主閣ですとか、名鉄新清洲駅とか、もちろんJRの清洲駅、あるいは小学校の名前も清須市立清洲小学校、これは2つの「す」の字を使うことになっている。

明治22年から、市になるまでの間に生まれたものなら変えない方がいい。現にJRの清洲駅など絶対変えられないということだそうです。それはそれで。清洲農事試験場ですね、「農場試験場」ではなくて。江戸時代には、混在するのですけれども、「須」でも「洲」でもどっちでもいい、両方使っていますのでいいのですが、限定したらどうかと思います。

それからもう1つは、『清洲雑誌稿』ですとか書名になって書かれたものは仕方ないですし、発掘の方で、例えば清洲城下町遺跡のこれも「洲」でいいかと思います。清洲陣屋なんかについては、どっちでも使っています。ちょっとうっとうしいくらい、たぶん案内される時でも、そういう話があるかと思いますが、そのくらいはしていったらどうかと思います。矛盾点がないことはないと思います。清洲城天主閣は、あくまでも「洲」だと言ってみえる。天主閣の「主」の字もそうですね。

マイスター。ドイツの職人の人たちが資格、そのマイスターを名前として採用するというのですが、**信長**の時代だったら「天下一」というような言葉が資格が与えられていた、そんなものになるのかなとったりしていますが。これはやむを得ませんでしょうかね。

以上にさせていただきます。

事務局

ありがとうございます。続いて、石田副会長、お願いします。

石田副会長

私は特に言うことはあまりないです。今回は非常にうまく整理されている内容だなと思いました。

その中でも、講座認定試験とマイスター認定試験との関係性は非常にいいと思いました。講座認定試験については親しみやすさということで合格域を下げるということで、マイスターについては基準を高くして、「マイスターを取りたい」という意欲を持たせるということも非常にいいと思います。

また、マイスターについては決して知識だけではなく、ここにもありますフィールドワーク

の参加とかまちづくりへの貢献度というのは非常に大切だなと思います。知性、教養、それから人としての資質がマイスターとしては非常に大事な点と。

何故こういうことを言うのかと申しますと、地域の資源だけが魅力ではないということで、例えばマイスターがガイドをする場合に、そのガイド役のマイスターの方も清須市の魅力になるのではないかと。その人がいるから清須市が好きになるということもあるので、マイスターについては必ず知識だけではなく、やはり品格が必要、そういう方がマイスターと呼ばれる形ではないかなと思います。

それから、講座修了試験については5割という合格点が書いてありますが、これはお願いなのですが、5割間違えてもいいという話になりますので、合否の時に間違いについての解説というか、フォローをきちんとしていただきたいと思います。

それから、先ほども話があったように朝日遺跡は今度、平成32年に資料館ができるのですが、最近、旅行会社の方とお付き合いがございまして、資料館、清洲城、キリンビールの関係についてお話しさせていただきまして、魅力ある街だと、半日、1日遊べる街になりますよというような話をさせていただくと、旅行会社の方も熱心に聞いていただけるわけです。

中でも朝日遺跡の資料館については、旅行会社の方でもその存在自体をご存じない方もいらっしゃるし、また、新しい資料館になるということもご存じないということで、資料館の話をするとう結構旅行会社の方、食い付いてくるのです。「そんなのがあるのか」「そんな魅力ある施設ができるのか。これは使えるぞ」というくらいの、そういう意識ですかね、そういうものを強く感じるのですが、非常にいい施設ですので、そういうものはやはりアピールしていかなければいけないと思いました。

地域の歴史とか自然を発信していくことは大事なのですが、新しい文化として、新しい資料館が今度できるのだよとか、ここはこういう事業が始まるのだよというのたぶん、話の中では出てくるかと思いますが、将来的なまちづくりの話についても講座の中でできれば、例えばガイド役でやっていただく場合にそういう話題も出て、清須市をもっとアピールというか、話題も栄えて、もっともっといい話になってくのではないかと、いい宣伝ができるのではないかと、そういうこともきちんとどこかで話していただくとありがたいと思います。

それから、最後に、私、副会長ということと、どちらかという観光協会事務局長としての立場で言わせていただきますと、いろいろご意見等も出ているとは思いますが、時間の話も当然あると思います。まずもって、いろいろ問題点はあると思うのですが、前に進めるということも一つ大事なところを思っておりますので、まず一歩踏み出す、まずやってみるということで、いろいろご意見はあるのですが、いち早く事業を進めていただきたいというのが私の思いでございます。私から以上でございます。

事務局

ありがとうございます。続いて、箕浦会長様、お願いします。

箕浦会長

先ほど先生方のお話ございました朝日遺跡ですね。ただ建物をぽこんと作るだけでは、1回見れば飽きてしまうので、何の魅力もないと思うのです。例えば、高山に山車記念館というのがあります。できた当時は200万人くらいの方が年間に訪れたそうですけれども、今は大体70～80万人が限界だそうです。少ない年は50万人くらいしかいない。

ですから、建物を建てる周りに、例えばその当時の人はどういう生活をしていたかという、今ちょうど竪穴式のちょっとしたものがありますが、ああいうものを作って子どもたちに体験をさせて、「こういう時代はこういうものを使って、こういう生活をしていたんだ」ということも子どもたちに教えることによって、遺跡というものがどういうものであったか、それが我々にどういうふうに関わり付いてきたかということも子どもたちに教えることは大変いいことではないかと思っております。できれば建物の周りに、当時生活していた様子を再現させていただけるとありがたいかなと思っております。

例えば吉野ヶ里遺跡なんかに行きますと、資料館もあるので、物見櫓があったり、いろいろな発掘するにはこうしたんだよということがきちんと展示してあったりします。建物をただ作って物を並べて展示するというのは、それも1つの方法かもしれないけれど、それはやはり1度見たら飽きてしまう。それが例えば半年とか3カ月に1回くらい展示替えするというなら別ですけど、そういうのをやるには大変な費用がかかりますので、そうではなく1日家族が遊べる、勉強ができるというふうにしていただきたいと、今聞いていて思いました。

それと、資料をずっと読んでみますと大変よくできているのですが、先ほど加藤先生が言いました「清須」に統一できないか。僕もこれは以前から思っていて、実はここにある清洲城ですね、あれも清須市の産業課で進めている、お城の運営委員会かな、そこで提案したことがあるのです。今、清須の産業まつりというのは、「清洲城信長まつり」というふうに名前が変わりましたよね。あの時に清洲の「洲」を「須」に変えられないかといってお提案をしたことがあるのです。その時に清洲地区の方に「お前は何を考えているんだ」と大反対をされました。「清洲というのは、場所が清洲だから清洲なんだ」ということで強く言われまして、やはりすごい地域意識を持っているんだなと思いました。

でも、長い目でみると「洲」と「須」の両方ありますので、使い分けることもいいのですが、市の名称となるものは統一しないと、端からみると清洲城と清須市は違うのかと思ったりして、アンバランスなところが出てくるのではないかと思います。

それから、フィールドワークを取り入れたいということですが、加藤先生もおっしゃったとおり、以前、僕から当時教育長だった内田先生にお願いしたことがあります。実は清須に赴任してきた先生たちが全く清須のことが分からない方もたくさんお見えだったんですね。僕は小学校4年生の授業によく出て行って話をすると、先生から「え？それって何ですか？」と聞かれることが多かったのです。そうではなくて、先生が知らないと子どもたちに教えないということで、内田先生に研修みたいなことをやっていただけませんかといってお願いました。1回だけ、内田先生が辞められる前に、バスを借りて、いろいろな施設を回って案内しました。誰々はこの担当というように割当を決めまして、やってみたところ、大変好評だった

ので、先生たち、指導する人たちが知ることによって清須ということが分かるし、また、僕たちがいくら声を上げて、やはり先生たちが言う言葉と僕たちが言う言葉では全然重みが違うと思うのですね。僕らが言う「好きなおじさんがやっているな」というだけで終わってしまいますが、先生がそのことを授業されるとやはりお子さんたちは真剣に聞きます。

今でも西枇杷島で僕たちがお祭りのことについて、小学校でいろいろ話をしておりますと、夏休みになって、自由課題ですか、宿題があるそうでして、よくうちにも「お祭りのことを教えてください」とか「古い写真はありますか」とか、そういう問い合わせが、大体20~30件はあるのですね。

そういうふうに先生たちが積極的に教えていただけると、子どもたちからそういう関心の芽が膨らんでいき、清須の魅力にもつながっていくのではないかと思います。

僕も日本全国を旅行していますと、「どこから来ましたか？」とお互いに話し合う時に、「清須から来たんですよ」と言う「信長のふるさとね」と必ず出ますので、もう少し上手にそういうことをアピールできるといいのかなと思います。

加藤先生が言われたのですが、清須は信長だけではないのですね。実は加藤清正も福島正則も、いろいろな方が清須の街のどこかに住んでいたわけですね。できれば、どこに住んでいたか今さら断定はできないにしても、大体こちら辺にいたよということを、ぱっと看板を上げておくと、50年くらいでそこに住んでいたことになるのですね。

そういうことも必要ではないかと思う。例えば今、誰々の屋敷跡といいますと、「では、ここに住んでいたのですか？」「いや。住んでいたこともあるかもしれない」ということをよく言われますね。だから、やはりそれも1つの宣伝として、「ここにいた可能性がある」ではないのですか、そういうのは。そういったのを一つひとつ、難しいことかもしれないけれどやっていって、清須は信長だけではないのだよ、もっといろいろな武将がいるのだよということも、ぜひとも宣伝していただきたい。

先ほどキンビールさんから言われましたとおり、キンビールを中心に回る巡回バス。僕はあれはいいアイデアだと思います。

田中委員

大体、お城を見て、キンビールへ行くのです。中には、先にキンビールへ行く方もみえる。そうすると、もう1杯飲んでしまっているから、話を十分聞いてない。でも、ほとんどの方は先に来てくれます。そういうパターンが非常に多い。

山本委員

やっぱり最後は飲む、で。

田中委員

飲んで終わる。

山本委員

飲んでから天主閣上るのは大変。

箕浦会長

やはり清須に人がたくさんお見えになるということは、それだけ清須にいろいろなものを落としていくと思うのですよ。そうするとね、当然、長いことぐるぐる回っていると、喫茶店もいるだろうし、お食事もいるだろうし、いろいろなことがいるようになってくると思う。

1カ所に行って帰る、1カ所に行って帰るというふうですと、滞在時間が大体1時間か2時間しかないわけですね。それをもっと面でやると1日、半日遊べるとか、3時間遊べるとなると、3時間も遊んだから1杯コーヒーでも飲もうかとか、どこかで休もうかというところも当然必要になってきますので、そういうことも必要かなと思いました。

マイスターとか清須学についての方向は、僕はこれでよろしいかと思うのですけれどね。

事務局

ありがとうございました。一回り委員さんからいろいろなご意見を頂戴いたしまして。時間も迫っておりますが、皆様のご意見をお聞きになられて改めてご発言の方があれば受けさせていたいただきたいのですが、よろしいでしょうか。

加藤（暉）委員

質問ですが、清須市職員に新しくなられた方は、清須はこういう地域だよという形で案内とか説明とかを受ける機会はあるのでしょうか、ないのでしょうか。

他の地で聞いたのですが、新しい職員が入ってこられると、市のバスで1日回りますと。蟹江町とかあま市とか愛西市とか、そんな話を聞いています。

ガイドボランティアの会があるのですけれど、そこで聞いたのですけれども、そういうのは清須市にあるのかないのかと思っておったのですけれどもね。

事務局

観光を中心とした、そういった勉強会等についてはございません。ただ、市内をバスに乗って、公共施設を中心に、こういう施設がありますよという機会はありますので、その中に当然、清洲城ですとかは入っております。ただし、観光名所的なものを順に巡ってというものではないですね。

加藤（暉）委員

清須が好きになるような説明を、新入職員の方に最初、植え付けることが必要ではないかと思えます。

事務局

おっしゃるとおりだと思いますので、一度上の方には提案していきます。

山本委員

むしろ採用試験。

加藤（暉）委員

知っているかといって。80点以上じゃないと採らない。

事務局

今、公務員は、結構狭き門ですから、ある程度、面接の時には、皆さん勉強してきますね。

私、面接には立ち合わないのですけれども、聞いた話によるとやはり、勉強してみえる方はかなり勉強して面接に挑んでくるというような話は聞いております。

加藤（暉）委員

結構ですね。

原田委員

いろいろとお話を聞かせていただいて、なるほどな、ということがたくさんあるのですけれども、加藤先生が言われた、そもそも清須学というのはどういうもので、どうしてか。これは今回、短い時間の中でテキストを作らなくてはいけませんので、既存のものはもちろんそれを参考にして作っていくのですけれども、何々学といった場合、そこで固定するものではなくて、それを調べたり新たな発見があって発展していくということがあってしかるべきだと思います。

最初にこの周辺で何々学を立ち上げられたのは春日井市で、亡くなられた森浩一先生という方を毎回座長に迎えて、毎年何かテーマを決めてシンポジウムをするなんていうことをされています。そこまでいくとすごく大変なことですが、ある程度の区切りの付いたところで将来的に、市内の、それは歴史でもいいでしょうし、自然とか現代のことでもいいと思うのですが、何かテーマを決めたシンポジウムとか勉強会みたいなことをこういうものに加えていければ、またそれが、新たな発見とか示唆になって巡回していくようなこともあるのではないかと思います。

箕浦会長から先ほど、体験が重要だというお言葉をいただきまして、私たちもそれは本当に重要だと思っております。新しい建物だけではなくて、そういった体験できる場、そういうものも整備していきたいと思っておりますので、またこちらの方もご支援いただければと思います。

事務局

清須学についてですけれども、清須学、最後に「学」という字が付いておりますので、固く考えれば勉強会だよというようなニュアンスで取られがちですけれども、そもそもこの事業の当初の目的といいますのは、地方創生ですね、そちらが一番の根底にございます。

そちらの方を清須市として議論していく中で、市民参画会議、また今、偶然、地方創生とは違う総合計画という中でも、市民参画でいろいろな会議をさせていただいております。そうしますと、市民の方々から生の意見を頂戴する機会がございます。それを通じまして、一番最初に清須市としては何をすべきなのかという議論の中で、山本委員が言われました、シビックプライドの醸成という言葉が数多く、市民の方から出てきております。

これは何かといいますと、清須市を対外的に情報発信する上において何が大事だろうねという議論を突き詰めていくと、まず、清須市の歴史資源である清洲城のことを、清洲城という信長、そういったことは漠然と分かるのだけれども、今現在、清須市にある清洲城、信長というのが日本の歴史の中でどれだけ重要なものなのか。また、朝日遺跡については再三出ていて、県の方も耳が痛いと思いますけれども、清須市に住んでいて「知らない」という方が大半です。まずはそういうところから見直そうよという話が市民の方々から出てきている。

そういった議論を通じて、清須市に住んでいて、清須市の良さをまず知ろうと。知って、その良さを知れば、今ネット社会ですので、自らが情報拡散をして、自ずと清須市が全国発信できるのではないか、というような出発点から、このような形に進んできたというような経緯がございます。

当然、清須学をやるのでしたら、また別のコンセプトでみると、やっていただいた方に社会参加の場としまして、得た知識を活用していただくためにガイドボランティアとして動いていただく、そういう社会参加の場をつくるということで、ガイドボランティアの方々にも協力を願って、そういった視点からもアプローチしていきたいということです。

ただ、大元はシビックプライドの醸成、それに付帯して観光ですとか、先ほど来出ております教育ですとか、大きく言えば福祉ですね、アクティブシニアの方々を外に出ていただいて活躍していくことが、健康につながるという側面から健康と、いろいろな側面が広がっているのですけれども、大元のコンセプトとしましては、山本委員が言われたように、まずは清須市民の方々のシビックプライドの醸成というところが出発点になって、今回の清須学が進んできているというところを、最後に補足させていただきたいと思います。

事務局

よろしいでしょうか。では、本日、いろいろご意見を頂戴いたしましてありがとうございます。

おおむね委員さんの方から、事務局からの説明の方向性で進めさせていただいてもいいというようなご意見を多数頂戴したところではございます。ただ、修正すべき点は多々ございますので、その辺りも踏まえて今後は進めさせていただきたいと思います。

それでは、清須学講座の進め方やテキストの作製の基本的な方向性といたしましては、おお

むねこの内容の方で進めさせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声)

事務局

ありがとうございます。それでは、清須学講座の基本的方向性につきましては、このような内容で今後進めさせていただきたいと思います。

講座については今年度については6回開催させていただきたいと思いますが、講師の人選、選定だとかご依頼をさせていただき、また、テキストを講座ごとに今後順順次作成させていただいて、最後にまとめていく形になりますので、こちらの執筆依頼等については、個別に準備を進めさせていただきたいと思います。

また、マイスターのあり方につきましては、本日もご意見の方をいろいろ頂戴しているところではございますが、事務局の方でご意見等を整理した上で、次回の会議でご議論いただけますように、資料を作成させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、本日の議題といたしましてはこれで終了させていただきたいと思います。

3 閉会

事務局

最後に、「3 閉会」ということで、本日は様々なご意見の方を頂戴いたしまして誠にありがとうございました。

次回の会議につきましては11月頃を予定していただいております。また日程につきましては皆様の方に日程調整のご案内をさせていただきたいと思いますので、その際にはご協力をお願いいたします。

最後にもう1点だけご案内させていただきたいと思いますが、先ほど来、9月17日開催の清須学開講記念シンポジウムのお話が出ておりますが、こちら8月31日が公式の締め切り日とさせていただいているところですが、席にまだ余裕があるということで、引き続き受け付けを行なっていきたいと思っておりますので、ぜひ皆様の周辺の方々へも、お声掛けをいただいて、多くの方にご参加いただけるようにご協力くださいますと助かります。

また、委員さんのご意見でもございました、広報について、マスコミを使った情報発信等をこれまでも行っているところではありますが、それだけでは足りないというご意見もございますので、引き続き市としても、事あるごとに情報の方は発信させていただいて、できるだけ多くの記事等にさせていただけるよう努力していきたいと思っております。

では、本日の会議はこれで終了させていただきたいと思っております。皆様、長時間に渡りましてありがとうございました。

以 上